

うづき

w/m: 戸塚絵理

一雨 早花咲月 紋白蝶 彼岸に舞う
玲瓏 早蕨 まるで 平安絵巻

幾重にもゆれる薄若緑
朝露抱きて仰ぎ見る 東雲の空は

目眩にも似たり ぎやまんの世界
悪しき寝覚め 浮き世の影 うづく

清明 木葉採月 春化粧 やがて橘
翡翠 白檀 沙羅の鐘が響く

宵闇に浮かぶ 花明かりの輪
念珠のつらなり思わせる
くるりくるり

甘露の雨降る まつりの後に
いざなわれし 常世の夢 はるか

寒風に惑う 花びら達が
流転の運命(さだめ)に抗いて
はらりはらはらり

瑠璃色の川面 小舟となりて
月の光 涅槃の夢 桜
サクラ... 咲く... ら

<楽曲説明>

卯月。

沖縄の言葉に接していると、日本の古語のなごりがそこかしこに顔を出していて、美しく、どこか懐かしく感ずる。

漢字の書き取りテストのような言葉のパッチワークはもろくはかないガラス細工。

散り散りに割れた破片の一つ一つに散り逝くサクラの涙が映っている。